



# BUSINESS REPORT

**第48期中間事業報告書**

2021年7月1日～2021年12月31日



Business Report 2022  
**第48期中間事業報告書**

**経営理念**

Management Philosophy

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、顧客・株主・従業員・取引先・社会の、精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

**ジョイフル 店員の誓い**

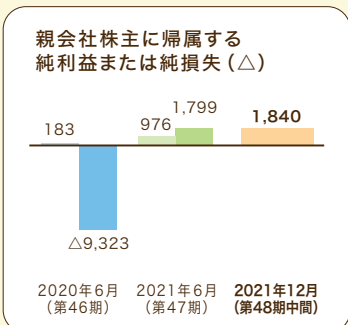
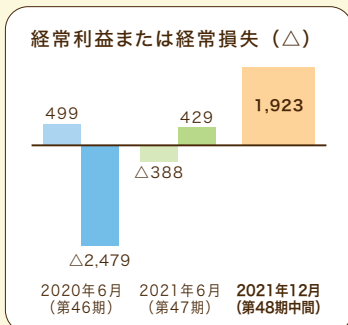
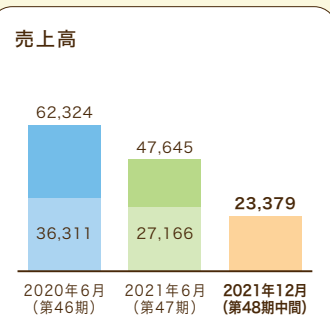
Our Promise

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。

**連結業績ハイライト**

Consolidated Results

■ 中間期 ■ 通期  
 (単位: 百万円)



株主の皆様へ

**財務基盤の安定化を図るとともに  
 全社的な収益性の改善を進めてまいりました。**

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに第48期（2022年6月期）の中間事業報告書を作成いたしましたので、ご覧いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また、感染拡大防止にご尽力されている医療従事者や関係者の皆様に改めて敬意を表し、深く感謝申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における国内の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国的に緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用され時短営業の実施など厳しい状況が続いておりましたが、ワクチン接種の普及等の効果もあり、新規感染者数が減少に転じ、社会活動に緩やかな回復の兆しがみられる状況となりました。

外食業界においても、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い外食需要が再び減少に転じるなど、先行きの見通せない大変厳しい経営環境が続いております。また、テイクアウトやデリバリー販売といった感染動向に左右されにくいビジネス展開に取り組む企業の増加など、外食業界をとりまく環境が大きく変化しております。

当社グループでも、このような非常事態に対処すべく、当面のコロナ禍において十分な資金調達を実施することで中長期的な財務基盤の安定化を図ることを目的として、資本性劣後ローンによる資金調達やコミットメントライン契約の再締結を実行しました。

さらに今後の中長期的な成長戦略を実現するため、既存のイートイン事業はもちろんのこと、テイクアウトやデリバリー販売、通販サイトを通じた販売を強化するなど、子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

商品施策では、既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に、試験販売を繰り返してお客様の消費動向を慎重に分析した上で、グランドメニューの改定を1回、美味しさめじる押し!あったかレシビ「鍋フェア」などのフェアを3回行いました。

グランドメニューの改定では、「たっぷりデミグラスソースのオムライス」や「冷やしユーリーンチーうどん」など、新メニューが14品登場しました。また、テイクアウト限定のお手頃弁当や日替りランチおよび昼膳など、テイクアウト対応メニューの拡充を行いました。

さらに「ヒカル考案冗談抜きで旨いハンバーグ」「ヒカル考案冗談

抜きで旨いおかんの唐揚げ」「ゴーゴーカーレー監修コースかつカレー」など複数のコラボレーション商品を開発しました。

営業施策では、重点的な取り組みとして、料理のクオリティー維持・向上を目的に作業チェックシートを見直しひとつひとつの作業の徹底を行い、良い品質で、見た目にもきれいで、鮮度の良いおいしい料理を安定的に提供できるように努めてまいりました。

また、販売促進として、ジョイフルでのお食事を通じてお客様に喜んでいただけるものを提供したいという想いからコラボレーションを行っていたカリスマクリエイターヒカルにアンバサダーに就任いただきました。コラボレーション商品は全国のジョイフル店舗の他にスーパーやドラッグストア、通販サイトでも販売を開始し多くの方からご支持をいただきました。便利でお得なスマートフォン専用無料アプリ「ジョイフル公式アプリ」も更なる充実を行いました。

店舗展開につきましては、グループ直営2店舗の出店および6店舗の退店により668店舗（グループ直営617店舗、FC51店舗）となりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は233億7千9百万円（前年同四半期比13.9%減）、営業損失は13億6千2百万円（前年同四半期は営業損失5億2千7百万円）、経常利益は19億2千3百万円（前年同四半期は経常損失3億8千8百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億4千万円（前年同四半期比88.6%増）となりました。

なお第48期中間配当は、新型コロナウイルス感染症の影響および財務状況を踏まえ慎重に検討させていただいた結果、無配とさせていただいております。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

穴見くるみ



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

## 2022年6月期 上期の主な取り組み

### ヒカル×ジョイフルコラボ企画の実施

ジョイフルではお食事を通じてお客様に喜んでいただけるものを提供したいという想いから、カリスマクリエイターヒカルさんとコラボレーションした新商品「ヒカル考案 冗談抜きで旨いハンバーグ」を2021年7月に、「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ」を2021年12月より全国のジョイフルおよびジョイフル商品取り扱いスーパーやドラッグストア、ジョイフルの自社通販サイト等にて販売いたしました。

皆様からのご支援のおかげをもちまして2022年3月には「ヒカル考案 冗談抜きで旨いハンバーグ」は累計販売数が200万食、「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ」は累計販売数が100万食を突破しシリーズ累計300万食を達成いたしました。

今後もJoyfullアンバサダーのヒカルさんと共にお客様にお喜びいただき、愛される商品を開発するべく、なお一層の努力を重ねてまいります。



### ジョイフル公式アプリの機能拡充

皆様にご好評をいただいておりますジョイフル公式アプリは11月下旬に3周年を迎えました。昨年度も「プレミアムラウンジ」の開設やウォーク機能の実装などお客様にご好評をいただいておりますが、3周年に合わせ「1日に獲得できる来店スタンプ上限見直し」「アプリのデザインのリニューアル」「3周年記念キャンペーンの実施」「来店スタンプインセンティブの向上」を実施いたしました。

上記を実施することでアプリの使用頻度が向上し既存顧客の来店頻度増加に大きく寄与すると共に魅力的なキャンペーン・インセンティブの実施による新規顧客の獲得にも寄与しております。



### ジョイフルオンラインショップの開設

スーパー・ドラッグストア等の量販店様・各ECサイト様・ジョイフルの店舗にて、多くの皆様に弊社の主力商品である「ジョイフルのハンバーグ तरीやきソースペッパー付き」、「ジョイフルのチーズインハンバーグ トマトソース付き」をはじめ、「ヒカル考案 冗談抜きで旨いハンバーグ」、「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ」も大変御好評をいただいております。

中でもECサイトでの売上が大きく拡大しており、各ECサイト様への展開に加え、自社ECサイト「JOYFULL×HIKARU SHOP」を12月1日にオープンさせていただきました。

自社ECサイトという特性を生かし、ヒカルさんとのコラボシールキャンペーン等を実施し、お客様からは好評をいただいております。

今後多くのお客様に、ジョイフルの味をお届け出来るよう努めてまいります。



### 新店オープン

〈国内〉 ■ ジョイフル赤坂南部坂店（宅配専門）（2021年12月7日）

〈海外〉 ■ 台湾ジョイフル 亀山文青店（2021年12月31日）

※（ ）内の日付はオープン日です。







※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

## 2022年6月期 下期の主な取り組み

### 外部販売の拡大

2017年から開始した家庭用冷凍ハンバーグの外部販売は、九州エリアのスーパー・ドラッグストア等の量販店様から販売が始まり、現在では北海道から沖縄までの全国に販売エリアを拡大することができました。商品に関しては、主力商品であります「ジョイフルのハンバーグ たりやきソースベッパー付き」、「ジョイフルのチーズインハンバーグ トマトソース付き」の販路が大きく拡大しております。2021年7月発売「ヒカル考案 冗談抜きで旨いハンバーグ」、2021年12月発売「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ」で、さらに販路が拡大いたしました。また、「Amazon」を始めとするECモールへの出店にプラスして、お客様への更なる販売チャネルとして、自社ECサイト「JOYFULLxHIKARU SHOP」を12月1日にオープンいたしました。今後も外部販売による販路拡大を進めてまいります。



### 商品メニューハイライト

既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に、試験販売を繰り返してお客様の消費動向を慎重に分析した上で、グランドメニューの改定を1回、美味しさを押し!あったかレシピ「鍋フェア」などのフェアを3回行いました。

グランドメニューの改定では、現在大好評をいただいている「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ」のグランドメニュー入りや、通常のハンバーグの1.2倍の大きさの「グランベッパーハンバーグ」などの新商品を多数販売開始するとともにこだわりの「プールパン」・「トースト」の2種類からパンが選べるようになるなど、より多くのお客様に喜んでいただけるグランドメニューとなりました。

また、テイクアウト限定のお手頃弁当や日替りランチおよび昼膳など、テイクアウト対応メニューの拡充を行いました。



### SDGsへの取り組み

ジョイフルでは、持続可能な社会の実現への取り組みとして、大分市のフードバンク事業者「フードバンク東九州」様へ、従業員が家庭から持ち寄った食材を寄付いたしました。寄付した食材は、必要とされている方や福祉施設に無償で提供されます。

また、2022年4月より大分市内の子ども食堂に対して食材の提供をはじめさせていただいており、新たな地域コミュニティの創生などにも協力させていただいております。

その他に、働きやすい職場環境づくりを推進することで、モチベーションの向上、労働生産性の向上、組織の活性化に繋がると考え、2020年から健康経営実施における目標を定め、「健康増進、生活習慣予防対策」「メンタルヘルス対策」などを進めた結果、2021年3月より引き続き「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されております。また、2018年に認定された「くるみん」は、子育てサポート企業としての実績が認められ、2022年も引き続き認定を受けました。継続して実施しているプラスチック製ストローの提供廃止、バイオマス材料を配合したテイクアウト用袋の導入などのサービスや事業活動を通じて、今後も環境保全と社会の発展のため、取り組みを進めてまいります。



## 連結財務諸表

### Point

#### 資産の部

当第2四半期連結会計期間末の総資産は29,848百万円となり、前連結会計年度末に比べ951百万円の減少となりました。これは主に、未収入金の減少1,162百万円によるものであります。

### Point

#### 純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産は5,094百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,839百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益1,840百万円によるものであります。

### Point

#### 営業利益・経常利益又は営業損失・経常損失

営業損失は△1,362百万円となりました(834百万円の減益)。主な要因は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の適用を受け、時短営業の実施などによる売上高の減少によるものです。経常利益につきましては、営業利益は減少したものの、助成金収入を計上した結果によるものです。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,253	6,585
固定資産	23,547	23,263
有形固定資産	19,369	18,980
無形固定資産	497	481
投資その他の資産	3,679	3,801
資産合計	30,800	29,848
<b>負債の部</b>		
流動負債	10,269	8,936
固定負債	17,276	15,817
負債合計	27,545	24,754
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,172	5,010
資本金	6,000	100
資本剰余金	2,315	4,266
利益剰余金	△ 3,529	2,256
自己株式	△ 1,613	△ 1,613
その他の包括利益累計額	7	17
純資産合計	3,254	5,094
負債純資産合計	30,800	29,848

### Point

#### 負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は24,754百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,791百万円の減少となりました。これは主に、短期借入金金の減少2,060百万円、長期借入金金の減少1,318百万円によるものであります。

### Point

#### 売上高

売上高は23,379百万円(前期比△13.9%)となりました。減収の主な要因は外部販売売上の増加があったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の適用を受け、時短営業の実施などによって売上高の減少によるものです。

### Point

#### 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は1,840百万円となりました。増益の主な要因は営業利益は減少したものの、助成金収入を計上した結果によるものです。

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)
売上高	27,166	23,379
売上原価	8,657	7,344
売上総利益	18,509	16,034
販売費及び一般管理費	19,036	17,396
営業利益又は営業損失(△)	△ 527	△ 1,362
営業外収益合計	277	3,407
営業外費用合計	138	121
経常利益又は経常損失(△)	△ 388	1,923
特別利益	1,445	-
特別損失	86	31
法人税等	△ 2	60
四半期純利益	973	1,831
親会社株主に帰属する四半期純利益	976	1,840

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 159	4,175
投資活動による キャッシュ・フロー	1,261	△ 97
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,260	△ 3,405
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 2,158	676
現金及び現金同等物の 期首残高	4,844	2,611
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,685	3,287

### Point

#### 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、4,175百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,891百万円、未収入金の増減額1,162百万円、減価償却費706百万円であり、支出の主な内訳は、未払費用の増減額330百万円、法人税等の支払い260百万円です。

### Point

#### 投資活動による キャッシュ・フロー

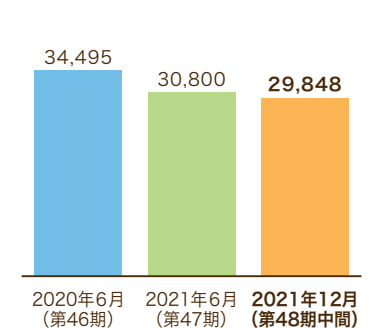
投資活動の結果使用した資金は、97百万円となりました。収入の主な内訳は、敷金および保証金の回収による収入244百万円であり、支出の主な内訳は、有形および無形固定資産の取得による支出286百万円です。

### Point

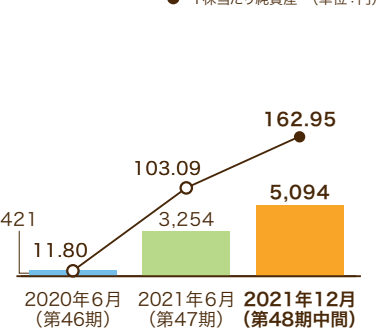
#### 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、3,405百万円となりました。支出の主な内訳は、短期借入金金の純増減額2,060百万円、長期借入金金の返済による支出1,318百万円です。

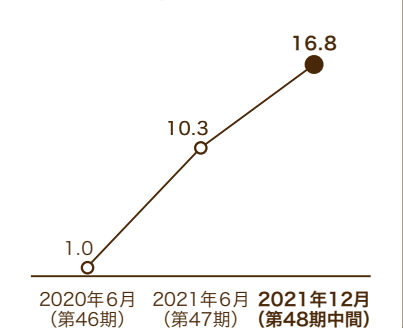
総資産 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



## 株式情報

### 株式の状況

発行可能株式総数  
**120,000,000株**

発行済株式総数  
**31,931,900株**

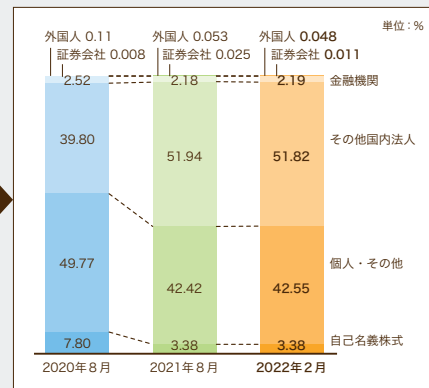
株主数  
**15,443名**

#### 株式の所有者別状況

	2020年8月31日現在		2021年8月31日現在		2022年2月28日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	8	2,590	8	8,130	7	3,550
外国人	12	34,492	19	17,100	18	15,500
金融機関	6	803,486	5	697,686	5	697,886
その他国内法人	100	12,709,134	96	16,584,970	92	16,548,510
個人・その他	14,581	15,892,516	15,080	13,544,732	15,320	13,587,172
自己名義株式	1	2,489,682	1	1,079,282	1	1,079,282
合計	14,708	31,931,900	15,209	31,931,900	15,443	31,931,900

※基準日時点の株主名簿に基づき記載しております。

#### 株式の所有者別構成比率の推移



### 株主メモ

**事業年度** 毎年7月1日から6月30日  
**定時株主総会** 毎年11月  
**基準日** 定時株主総会の議決権/毎年8月31日  
 期末配当金/毎年8月31日  
 中間配当金/毎年2月末(中間配当を実施する場合)  
**単元株式数** 100株  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**郵便物送付先** 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
**(電話照会先)** TEL 0120-782-031(フリーダイヤル)  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

**公告の方法** 電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
**公告掲載URL** <http://www.joyfull.co.jp/>  
**上場取引所** 福岡証券取引所

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について  
 株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## 会社情報・店舗情報

### グループ店舗一覧 (2021年12月31日現在)

**668店**

うちFC店舗51店舗 ※( )内はFC店舗  
 ※新業態・台湾含む

九州・沖縄エリア  
**345店**

※新業態店舗を含む  
 【ジョイフル 345店】  
 福岡 99(3) 大分 54(3)  
 佐賀 22 宮崎 36(1)  
 長崎 25(24) 鹿児島 53(7)  
 熊本 46(2) 沖縄 10(10)

中国エリア  
**87店**

【ジョイフル 87店】  
 鳥取 4 広島 16  
 島根 7 山口 36(1)  
 岡山 24

中部エリア  
**57店**

【ジョイフル 57店】  
 岐阜 11 愛知 28  
 静岡 12 三重 6

北陸エリア  
**11店**

【ジョイフル 11店】  
 富山 6 石川 5

東北エリア  
**11店**

【ジョイフル 12店】  
 宮城 10 福島 1

関東エリア  
**41店**

【ジョイフル 40店】  
 茨城 6 埼玉 11  
 栃木 4 千葉 7  
 群馬 8 東京 4  
 【キッチンジロー 1店】  
 東京 1

近畿エリア  
**69店**

【ジョイフル 41店】  
 滋賀 6 兵庫 16  
 京都 3 奈良 5  
 大阪 4 和歌山 7  
 【フレンドリー 27店】  
 京都 3 奈良 2  
 大阪 18 和歌山 3  
 兵庫 1

四国エリア  
**40店**

【ジョイフル 40店】  
 徳島 5 愛媛 17  
 香川 13 高知 5  
 【キッチンジロー 1店】  
 大阪 1

台湾  
**7店**

### 会社概要 (2021年12月31日現在)

創業	1965年6月	資本金	1億円	(連結子会社)
創立	1976年5月	主な事業内容	「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開	株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社フレンドリー /株式会社キッチンジロー /台湾珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス
社名	株式会社ジョイフル			
大分本社	大分県大分市三川新町1丁目1番45号			
福岡センター	福岡県築上郡築上町日奈古186番1号			
熊本工場/配送センター	熊本県菊池市架梁尾字下大迫445番4号			
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号			